

<参考>

明治14年・24年の御鍬祭り（『岐阜県史 通史編近代下』1972）

（明治）14年6月9日10日二晩鶉村より、「お鍬祭トカ豊年祭トカ申村中若者提灯百張モトモシ、半鐘太鼓ニテ騒キ立テ参り、昼モみこしニツモカキ来リ・・・今晚ヨリ当村若者モ寺ノ鐘打鳴シ村中廻歩キ」、一夜中議員にお鍬祭挙行を頼み歩いた。

又同村では24年5月1日をお鍬祭休日としたが、隣村鶉村柳津村等では神輿を5つもかつぎ廻り、酒は酌呑み、3日間も狂歩き、これに刺激されて佐波村の若者も久衛らの制止を無視し、5月2日～4日までお鍬祭を行い、神典を6つも7つもかつぎ、村中を歩き廻り踊り廻った。これに対し久衛も黙認、若者に酒、豆腐、金等を与えている。（青木日記）



割羽織り（『広辞苑』）



タチツケ袴

『新編弘前市史 通史編3』

